

**研究課題：自閉症スペクトラム児の症状緩和に及ぼす血清ビタミンD 濃度の検討**

**研究課題/領域番号：20K02356**

**研究種目：基盤研究(C)**

**研究代表者：望月 美也子 京都文教短期大学, 食物栄養学科, 准教授 (20367858)**

(概要)

研究代表者らはこれまでに、自閉症スペクトラム障害（ASD）と診断された児の血清ビタミンD濃度が、欠乏もしくは不足の状態であること、市販ビタミンD入りオイルの補充によって、血清ビタミンD濃度が欠乏もしくは不足の状態から充足状態まで改善し、感覚や行動の異常性の一部が改善傾向を示すことを明らかにしている（論文投稿中）。

近年、世界的にはASD児の血清ビタミンD濃度に関する研究が散見されるようになったが、日本人ASD児の血清ビタミンD濃度の維持が障害に及ぼす影響を明らかにした報告はない。そこで、本研究では、妊娠期からの栄養支援が、母体の血清ビタミンD濃度欠乏状態を改善し、9ヶ月児の三項関係の構築に及ぼす影響を明らかにすることを第一の目的とする。また、ASD児の血清ビタミンD濃度を測定し、ASDを発症しない小児の血清ビタミンD濃度のカットオフ値も検討する。さらに、最終年度は、医療系多職種が連携し、ASD児のビタミンD補充によるASD症状の緩和効果の検討を目的とする。